○　地域医療構想アドバイザーから後日寄せられた発言趣旨

【人口構造】

・　印旛地域は大学病院の開院により医療の構造（需要・供給）が大きく変化していることから、他の医療圏との関係の変化が見られている。
・　成田空港の機能拡充等により人口の増加が期待される地域では、人口移動といった流動性に留意する必要がある。
・　一方、人口減少が進み医療施設の密度が低い地域も存在することから、他の医療圏との連携や広域性を鑑み、印旛医療圏として病床機能や診療領域の検討を進める必要がある。

【医師の働き方改革】

・　各医療機関で医師の働き方改革を進めるに当たり、実際の医療機能と、自分たちが達成しなければいけない将来像との間で板挟みになっているように思われる。
・　今後は、公的な支援制度を利用して働き方改革の可視化を図る等、各医療機関における取組姿勢を内外に示すとともに、罰則が動機になるのではなく、不断の改善意識を持ち続けることが重要と思われる。

【具体的対応方針】

・　具体的対応方針の見直しについては、当初の方針を作成あるいは変更した担当者が異動していることがあり、対応に苦慮している医療機関も存在する。
・　具体的対応方針は一時的な見直しではなく、今後も継続して見直しを図ることが必要である。
・　白井聖仁会病院が病床機能を変更する点について、日常生活を支える手術件数の増大を踏まえ、妥当なものと考えられる。
・　重点支援区域については、国の支援内容は参考になると思われるが、印旛医療圏では制度の主たる目的と馴染みにくいことから、申請にあたっては慎重に考察する必要がある。